小さな勇者

岡山県立岡山大安寺中等教育学校　３年　石松　茉子

私はよく町中で薬物乱用を防ぐためのポスターを見かけます。それらはどれも鬼気迫るものばかりで、見る度に薬物の怖さを感じさせてくれます。ただ、私の中にあったその怖さは、とても漠然としていました。なぜなら薬物と自分の生活をどうしてもうまく結びつけることができなかったからです。いわゆる傍観者、としてその恐ろしさを見ているような気持ちが強くありました。しかし、それでは万が一自分の周りに薬物が近づいてきたときに対抗できません。だから私はその未知の実態について調べたいと思ったのです。

調べるときに私が注目したのは薬物に手を出してしまった人々の体験談です。思いのこもった実際の出来事は薬物の恐ろしさを体感させてくれました。その中でも特に感じた恐ろしさは主に二つあります。一つ目は薬物を始めたきっかけの多くが身近な人だということです。友達や先輩、恋人などからの誘いは信用しやすいと思います。そして誘うときには「自信がつく」「痩せられる」といった甘い言葉を使い、薬物であることを言わないそうです。しかも最初は大抵無料で、少しだけなら、という気持ちにうまく入り込んできます。そんな実に巧妙な手口に私は驚きを隠せませんでした。そして心の中でだんだんと不安な気持ちが大きくなっていき、「私なら大丈夫」と遠いところから見ていた薬物が近づいてくるのを感じました。次に二つ目はどんな人にも乱用者になってしまう可能性があるということです。体験談では中学生から大学生、サラリーマンや主婦など本当に様々な人の後悔がつづられていたのです。そこには精神的にしんどい思いをしていた人だけでなく、普通に毎日を過ごしていた人々が少なからずいる、という事実がありました。私は一歩間違えたら自分も乱用者になってしまうかもしれない、と背筋が凍る思いがしました。

では、私たちが薬物に対抗するためにはどうすればよいのでしょうか。私は自分自身が薬物について調べていく中で、薬物について知り、想像することが大切だと思い始めました。調べ、得た知識を使って薬物に手を出してしまった自分の姿を想像します。皆さんに大切な人はいますか。私にはいます。いつも応援してくれる家族は私が薬物を使ったことを知れば、悲しむでしょう。きっとたくさんの迷惑をかけると思います。そして叶えたい夢はありますか。薬物は自分の未来の可能性を狭めます。好きなことややりたいことはありますか。私はまだ出会っていない本や映画を見たいですし、色々なところへ旅をしたいです。しかし、薬物依存になってしまうとお金や時間のすべてを薬物のために使うようになると言います。何より最も苦しいのは自分です。薬物依存から抜

け出すためには辛い離脱症状に耐えなければなりません。他にも、薬の副作用で思い出という名の宝物を失うことや、幻覚や妄想によって犯罪を犯してしまうこともあります。このように、ほんの少しの好奇心が大切なものを瞬く間に壊していくのです。そうして想像力を働かせ、薬物の恐ろしさを自分のこととして捉えることで恐怖や不安が心に生まれると思います。私はそのネガティブな気持ちが「少しなら、大丈夫」という、悪魔のささやきを打ち消す心の強さと断る勇気につながると考えています。さらに最近は、姿を変えた薬物も登場しています。カラフルなラムネやグミのような可愛い見た目だと薬物を使うハードルは格段に下がります。また、薬物だと知らずに食べてしまうこともあるかもしれません。でも、そういった方法で薬物の世界へ導かれることがあると知っていれば、可愛い姿の薬物にも対抗できます。

薬物の世界に誘われることは誰におきてもおかしくないのだと私は薬物について調べる中で何度も感じました。それは自分の身近な人からの招きである可能性も十分にあります。もし、その場面に出会ったとき薬物に対する好奇心や自分を過信する気持ちは様々なものを壊します。そして薬物はいけない、と自制する気持ちや断る勇気は大切なものを守ります。その勇気の出し方はきっぱり断ることだけではないと私は思っています。話題を転換したり、仮病を使って立ち去るという方法も立派な断り方であり、勇気の出し方です。一人で抱えきれないときには相談にのってくれる施設もたくさんあります。だから私は自分と大切な人の未来を守るために、小さな勇気を出せる人でありたいです。そうして世界に小さな勇者が増え、薬物によって悲しむ人が減ることが私の願いです。